



テキスト読み上げを設定する

- [Configuring Text-to-Speech](#) (1 ページ)

Configuring Text-to-Speech

概要

テキスト読み上げ (TTS) 機能を使用すると、ユニファイドメッセージングのユーザーは、電話を使用して Unity Connection にログインすると、メールを聞くことができます。音声合成の詳細は、「[テキスト読み上げ](#)」の項のページ 1-10 を参照してください。

テキスト読み上げを設定するためのタスク リスト

Unity Connection でテキスト読み上げ機能を有効にすると、Exchange または Office 365 のいずれかからアクセス可能な電話からメールを再生できます。

テキスト読み上げ機能を設定する

ステップ 1 ユニファイドメッセージングユーザーがアクセスする Exchange サーバーのバージョンに応じた手順に従います。

- [Office 365](#)、[Exchange 2019](#)、[Exchange 2016](#)、[Exchange 2013](#) または [Exchange 2010](#) で TTS を設定する。

ステップ 2 既存または新規のユニファイドメッセージングサービスの Unity Connection でテキスト読み上げを有効にします。「[メールサーバーにアクセスするためのユニファイドメッセージングサービスを作成する](#)」、[ページ 2-27](#)の項で説明した手順に従い、ユニファイドメッセージング サービスを設定します。

(注) [サービス機能 (Service Capabilities)] の [テキスト読み上げ (TTS)] を使用して Exchange の電子メールにアクセスする (Access Exchange Email Using Text-to-Speech (TTS))] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

Office 365、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013 または Exchange 2010 で TTS を設定する

ユニファイドメッセージユーザーがアクセスする各 Exchange サーバーで、SSL 証明書を作成し、指定された手順に従ってインストールします。

1. Exchange サーバーで、[Exchange Management Shell] を開きます。
2. 次のコマンドを入力します。

```
new-exchangecertificate -generaterequest -domainname <Exchange server> -friendlyname <friendly name> -path c:\csr.txt
```

<Exchange server> は Exchange サーバーの IP アドレスまたはホスト名で、<friendly name> は Exchange サーバーに選択したわかりやすい名前です

Exchange サーバーのドメイン名は、IP アドレスまたは完全修飾 DNS 名（推奨）である必要があります。これにより、Unity Connection サーバーは Exchange サーバーを正常に ping できます。そうしないと、ユーザーは外部メッセージストアのメールにアクセスできない場合があります。

3. **Enter** キーを押すと、**Csr.txt** の名前が入った証明書署名リクエスト（CSR）ファイルがルートディレクトリに作成されます。
4. CSR ファイルを認証局（CA）に送信すると、新しい証明書が生成され、返送されます。



(注) CA パブリックルート証明書またはパブリックルート証明書チェーンのコピーが必要です。この証明書は、Exchange 2019、Exchange 2016、Exchange 2013、または Exchange 2010 サーバーを信頼するように Unity Connection を設定するために必要です。

5. 次のコマンドを入力します。

```
import-exchangecertificate -path <path>
```

<path> は、CA が新しいサーバ証明書を保存するディレクトリの場所です。

6. **Enter** キーを押して、次のコマンドを入力します。

```
dir cert:\localmachine\my | fl
```

7. **Enter** キーを押して、「thumbprint」プロパティをハイライトし、クリップボードにコピーします。

8. 次のいずれかのアクションを実行します。

- ユニファイドメッセージユーザーのサービスクラスが、IMAP を使用して外部メールサーバーからメールにアクセスし、カレンダーデータを使用するように設定されている場合、次のコマンドを入力します。

```
enable-exchangecertificate -thumbprint <thumbprint> -services "IIS,IMAP"
```

- ユニファイドメッセージユーザーのサービスクラスが、IMAP を使用して外部メールサーバーからメールにアクセスし、カレンダーデータを使用するように設定されていない場合、次のコマンドを入力します。

```
enable-exchangecertificate -thumbprint <thumbprint> -services "IIS"
```

- **Enter** キーを押します。



(注) Office 365 で TTS を使用する場合、特定の設定を行う必要はありません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。